

3 学期始業式の後、生徒は短い時間で「始業式を終えて」を記入しました。

この取組は、聞いた話を要約したり自分の考えを組み入れた文章を短い時間でまとめることを通じ、思考力・表現力等の向上を目指すものです。

内容は、「1 今日の校長先生の話の要点は、どのようなことでしたか。箇条書きで書きましょう。」「2 上記の内容をもとに、自分が感じたり考えたりしたことなどを、文章で書きましょう。」の2つです。各学年から何名かの内容を紹介します。

1 年 Y. S.

1・地震、災害の被害

- ・できる支援はする
- ・ニュースからたくさんの情報を学んでいく

2・石川県を中心に起きた元旦の地震は、168人もの人が亡くなってしまい、326人の人が行方不明となっていることを知りました。もしかしたら、私たちの方にも被害が及んでいたかもしれないと思い、今日、顔を合わせられたのも幸せなことと感じました。亡くなってしまった人たちや、その親族の方々のためにも、私もできることから始めようと思いました。ニュースでは、飛行機と航空機が衝突し、火事になったという報道もありました。その中でも、乗っていた人全員を救助できたのは素晴らしいことだと思います。ドアを開けるか判断を見極められたのもすごいです。このようなことは訓練を積み重ねてやっていくことなので、日頃から意識して生活したいです。新しいことには挑戦していき、厳しいことがあってもあきらめず進んでいきたいです。

1 年 T. N.

1・地震、飛行機

2・新年最初から地震があったり、事故があったりして、大変なスタートとなったと思います。支援するということは難しいです。僕の中では。ただ、地震が発生したとき3mの津波、5mの津波が来る、「早く、早く逃げて」というNHKのキャスターさんの声を聞いて、「そんならい大丈夫でしょ」と思っていました。津波が来た後、被害を知って、自分の考えが浅はかだったと感じました。津波についての考えは、改めなくてはならないと思いました。

1 年 J. K.

1・3学期について 校長先生と私たちが冬休みを明けられたことについて

- ・大きな災害と大事故で始まった正月について
- ・災害と事故の状況 災害や事故にはあうこと

2・今年は大きな災害と事故で始まった年なので、こうして今日みんなで集まることができてとても嬉しく思います。自分自身ができる最大限、支援していきたいです。3学期はこれまで以上に自分が成長できるように、1日1日を思い出のある日にしていきたいです。そのためにまず自分の習慣を見直していき、学習と部活を両立させていきます。1年生が入ってくるので、あこがれるような人になるようにもしたいです。

1 年 A. S.

1・3学期はいろいろな行事があるが、1年のしめくりでもある。行事に全力で取り組むべきということ。

- ・災害や事故によって亡くなった人がいるということ
- ・災害や事故にあわなかった人は、支援や学びや備えをすること。

2・1年生はいろいろなことがあった1年だったが、学んだことが数えきれないくらいある。スキー教室という

行事は、この1年の学びを集約させたものであるべきなので、単純にスキーをするために行く行事ではないことを意識することが必要だと思った。災害や事故については、事前に防げればよいことに違いないが、かなり難しいことだとは思うので、起きてからのことに注力する方が大切であるということに共感した。3つのやるべきことはすべて、起きたことから立ち直ってより強くなるためのものである。プロセスも、中学の勉強習慣から学べるように思える。

1年 R. A.

1・地震・事故

- ・できること、学んだこと、それからわかったこと
 - ・3学期
- 2・今日の校長先生の話では、今、みんなが集まれていることに感謝し、日常の生活を見直してほしいということだった。僕は、大きな震災や事故を体験したことがないので、いつもの日常を当たり前で過ごしていた。しかし、地震や事故など正月にあつて日常を見直し、ハザードマップを確認したり、家族への感謝を日頃から伝えていきたいと思いました。

1年 A. I.

1・災害や事故などについて

- ・自分達に出来ること ①支援などをする ②災害などから学ぶこと ③災害などから備える行動を起こすこと
- 2・今日の校長先生の話では、1月に起きた災害や事故などについて話をしていました。1月1日に起きた能登半島地震や、航空機同士の事故などがありました。その災害や事故から自分達にできることは、募金などの支援をしたりすることや、災害や事故から学ぶこと、災害などから備える行動を起こすことをすることです。今日話を聞いて、災害や事故にあふ確率はみんなあるので、いざ発生したときにどう行動するかや、どう身を守るかなどを、日頃考えておくことが必要だと思いました。

1年 K. W.

1・地震や事故

- ・やること 支援できるならする 学んだこと 学んだことから考える
 - ・自立 貢献
 - ・よい挑戦をする
- 2・地震や事故で被害にあった人々がたくさんいました。ただテレビを見るだけではなく、そこから学べること、考えることが大切だと分かりました。中央中の合い言葉、自立・貢献。今年は、2年生になって新1年生が入ってくるので、学校に貢献したりしたいです。また、大人への一歩ということで、少しずつ自立していけたらいいなと思います。

2年 Y. S.

1・能登半島の地震について

- ・羽田空港の飛行機事故のCAさんやスタッフによる奇跡
 - ・これからすべきことについて
- 2・僕は、能登半島地震が起きたとき、祖父の家で新年会をしていました。6才のいとこが2人と小3が1人、中学1年生のいとこがいました。祖父がニュースをつけると、地震の映像が流れていて、6才と小学3年生のいとこ3人は、見て泣いていました。僕は、地震に限らず災害はたくさんの人の心を傷つけているなと思いました。そして僕は、お年玉を寄付することにしました。今回の校長先生の話聞いて、寄付してよかつ

た、と思えました。

2年 H. M.

1・できることはやる

- ・学ぶ
- ・学んだことを活用する

2・今日のお話から、中央中学校の合い言葉「自立・貢献」は、災害時や事故のときにとても大切なんだなと思いました。私の友達も被災し、ライフラインの障害や物資不足で困っているとの話を聞いたので、困っている人の為になるよう、支援の手助けを少しでも行っていきたいです。また、避難訓練や防災グッズの整備など、日々の準備、意識を高めていけば、もしものときに少しでも早く逃げられたり、少しでも誰かに貢献できたりすると思うので、心の中に常に入れておきたいです、

2年 H. S.

1・3学期について

- ・能登半島地震と航空機衝突事故について
- ・3学期をどう過ごしてほしいか

2・災害と事故…新年早々、お正月ムードが高まっていた時間帯を2日立て続けに襲った速報。一週間後に始まった3年生の0学期をどう過ごすか、目標が立て辛かった。校長先生の話の中にあった「できる支援」。募金献金活動なども含めた支援のお話をされている中にあった「奇跡」という言葉。今、生きていることは奇跡なんだと響くものがあった。支援など、私には到底できそうにないと思っていた。だからこそ、「できる支援」を進めていくとともに、学校生活の場でも協力、「貢献」し、立派な3年生になる準備をしたい。

2年 M. I.

1・今年目標

- ・災害
- ・事故（飛行機接触）

2・今年は受験生になる年でもあり、周りの人からたくさんの期待・プレッシャーなどが多い中、自分の限界を超え、知識を増やし、「限界突破」を目標に、今までたくさんの人から教わってきたものを、今、受験生として復習を重点的に行っていきたい。1月1日新年の始まりすぐに地震が起き、それも震度7で私が記憶している中で一番大きかった。私はその際、電車に乗っていて地震が起きたのが分からなく、周りの騒ぎで気づいた。いつ起こるか分からない災害に対し、特に日本は気をつけていつでも避難できるようにしておきたい。地震に続いて起きたこの火災は、自分や周りの不注意だったり、色々な条件が重なりあい起こった、逆に奇跡だと思った。また、他人事に考えるのではなく、これからも使わないといけな場所と考えると、今後何かできることがないか考えていきたい。

2年 S. A.

1・能登半島地震

- ・羽田空港 飛行機の炎上
- ・支援 学ぶ について

2・元日の日に、能登半島を中心に震度7とする大きな地震が起こり、その次の日に羽田空港で飛行機が炎上し、新年最初からパニック状態になっていました。学校では避難訓練をし、終わった後いつも振り返っているが、地震はいつ起きてもおかしくない状態です。地震により168名の死亡が確認され、323名の安否確認が

とれていない中で、私たちのところにも震度3の地震は来たが、今こうして安全に学校に来れているというのが奇跡だと思います。今現在、石川県の住民たちは、苦しい環境の中で生きて食べ物もない状態なので、自分たちもいつかこうなることを予想し、地震が起きても食べ物・水が確保できるよう、また、すぐ避難所に行けるように、これからの避難訓練はあわてず、真剣に取り組みたいと思いました。

2年 N.K.

1・できる支援（地震）

- ・学ぶこと
 - ・将来に役立つよう力をつけてほしい
- 2・新年、1日から地震が起こり、東日本以来の大津波警報がなされ、被災した方々や被災地に居た方は避難を余儀なくされ、年初めから体や心を休めることができなかったと思います。地震から1週間がたち、SNSでは陰謀論や東日本大震災などとの比較が行われていました。比較などによって、今回はそんな大したことない、同じにするな、などというのを見かけましたが、三陸沖地震が行ったことで、同じことは繰り返すまいと対策を行ったおかげで、今回被害が600人以下で済んだのだと思いました。決してこの600人以下は少ないとは思いませんが、また日本が進化できるきっかけになったと思います。

2年 K.S.

1・地震があったけれど、自分ができるところをしてほしい

- ・これからの成功をつかんでほしい
- 2・僕は、校長先生の話聞き、元日から石川県方面で起きた地震について、改めて地震はいつ起きるかわからず不規則だということ、地震がもし起きたら自分はどのような行動をしたら良いのか気づかされました。「地震はなかなか来ないし、来ても弱いものだから強い地震は来ない」と思って何も対策しないのではなく、家具が倒れないように補強などをしようと思いました。また、少しでも募金をしたり、何か直接でもなくできる支援などもしてみようと思いました。

3年 M.K.

1・災害と事故

- ・3学期＝しめくくり
- 2・校長先生のお話を聞いて、3学期は新学期に向けて備えていかなければと思いました。1／1、1／2にあった災害や事故のように、しっかり備えれば被害を最小限にでき、安心感を少しでも増やせると学びました。そのため、入試や新学期に向けてしっかり備え、万全な状態で迎えたいです。そして、1年間過ごした仲間とのお別れも近づいています。今、できることを考え、後悔の無いようにしたいです。

3年 Y.K.

1・地震（石川県）

- ・飛行機事故
- 2・石川県で数名が亡くなったり、何万人の人が苦しい思い、辛い思いをしていて、その中には受験を控えた学生も多く、その人の分まで受験への意識を持ちたいと思えた。飛行機事故では、300人以上の人が助かり、これは訓練をしてきた人たちのおかげだと思い、300人以上の人たちの冷静で落ち着いた行動のおかげでもある。これからは協力を自分はしていきたいと思えた。

3年 R.M.

1・地震について（災害、事故）

- ・ 私たちにすべきこと（できる支援をする、学ぶ、学びからつなげる）
- ・ 挑戦と成長

2・私は、地震が起きたとき、1月1日の夕方、親せきの家でご飯を食べていました。地震が長く続き、みんなで騒いでしまったとき、兄が「地震ごときで…」と平気な顔をして言いました。私は地震はすごく危険で危ないと思っているので、この言葉は間違っていると思います。私は被災地で被害にあった人たちのことを考えられない人にはなりたくないです。この思いから、少ないお金ではありますが、500円を募金しました。この500円が誰かのためになるといいなと思います。今年は受験が1月の後半にあります。もう1か月もなく、焦り始めました。「もっと前からちゃんと勉強すればよかった」とずっと思います。これをこのままにするのではなく、次の大学受験のために今からでもできることは行い、大学受験で後悔しないようにしたいです。冬休み中に塾の講師がある言葉を言いました。それは、「志望校合格は通過点」です。受かった！と浮かれて遊びまくってしまい、高校の授業でついていけなければ意味がないと考えたので、予習をして赤点回避のための授業ではなく、復習の授業になるように努力していきたいです。

3年 A.O.

1・能登半島地震100人以上の犠牲、2万人以上が避難所、羽田空港滑走路炎上、海保5人亡くなる 受けなかった私たちが幸運

- ・ できる支援はする（お金の方が間違いない）、この内容から学ぶ（羽田は乗客が全員帰還、冷静に300人避難→難しい）（CAさん達が見極めて脱出させる→普段の取組）→備える行動を
- ・ 事故・災害にあうことはありえる 自立・貢献→幸せになってほしいという願い、挑戦と成長が重要

2・大事なことは、まず、災害や事件・事故が起きたときに落ち着いてどこまで対処できるかだと思う。私は年始めに家族旅行で熱海まで行った。熱海は沿岸で地形の高低差が激しく、土砂災害を受けやすい地域である。その地震のニュースを知ったときも熱海にいたので、このような災害をここで受けたらどうしようと不安になってしまった。しかし、私たちは避難訓練を繰り返し行い、このようなことに備えている。発生しても係員さんなどの指示をよく聞いて協力すれば助かる可能性は高くなる。これを機に、災害への備えを徹底したり、自分は今何をすべきかを考えながら、卒業まで安全に日々を充実させていきたい。

3年 S.K.

1・石川県での地震について

- ・ 飛行機の衝突について
- ・ →これらを踏まえて、今日全員集まれたことは奇跡

2・地震が発生した際、私は春日部の神社に行って初詣していたけれど、そのとき、たくさんの人の携帯が鳴って少し怖かったです。神社に来ていた人の中に、親族が被害に遭ったらしい人もいて、今こうして生きていることはすごいことだなと実感しました。地震が多い日本では、いつ災害が起こるか分からないけれど、常に危機感をもって過ごしていくべきだなと思いました。

3年 K.N.

1・3学期は今年度のしめくくり

- ・ できる支援をする
- ・ 災害から学ぶ 備えること

2・今回の地震を踏まえて、自分にできる支援を募金等で行えたら良いと思いました。また、災害からどんな危

陰が及ぶのか、何が必要なのかを改めて考えました。家族とも災害が起きたときの避難場所を話すことや、備蓄について何回か話したことがあります。ネットで今日の地震の被災者の体験に触れ、必要な物品がまだあると感じました。現状に慢心せずに、どんな事態にも対応できるような備えを、災害だけでなく受験にもしていきたいです。

- ・生徒達の内容にあるとおり、元旦から地震災害、航空機事故と、大変な年明けとなりました。始業式の話でも当然にこれらの内容に触れ、「自分はどうか、何ができるか」について話しました。学校としても義援金募金を行いました。亡くなられた方々の冥福をお祈りし、被災された方々への支援を行うと同時に、無事に学校に集まり、始業式をしてあたりまえの毎日を送ることができるありがたさを感じたところです。
- ・同じ話を同じときに聞いていても、受け取り方や印象に残った内容は皆異なります。教育の面白さ、また、難しさを感じるころでもあります。
- ・この取組には「正解」はありません。話の要点を捉え、聞いた話について自分の考えを含めて短い時間で書くことを求めるものです。

：越谷市立中央中学校 校長 石山 秀樹